

# 巻頭言

## 学際的研究

### 第1特別研究室

多賀康訓



近代科学はひたすら物事を“基本的構成要素”に分解しそれらの性質をより深く追求しようとする還元主義にもとづいてきた。事実、この考えは全体論を制し今日の科学技術の発展をもたらした。一方、新しい全体論とも言うべき要素を統合する学際的研究が1980年代に生まれた。これは多くの学問分野を視野に入れた境界領域の研究である。勿論、要素技術が基本であることに変わりないが、要素の学際的統合が全体を越える可能性を秘めていることも事実である。このような学際的研究で最も大切な事はその議論の過程でそれぞれの研究分野の専門家が決して曖昧な妥協をしないことである。今日、複雑に多様化した多くの要素技術研究を展開する研究所ではしばしば学際的研究の必要性が叫ばれる。しかし、その実態は多分野の研究者が一つ屋根の下で研究しているだけであり分野横断的でもなくましてや学際的でもない場合が見られる。多くの分野において高い固有技術を有する研究者を擁している豊田中央研究所が異分野間の有機的連携を強化し真の学際的研究を志向するならば新しい学問分野の創出により科学技術への多大な寄与が出来ると思う。それが強く求められている事を良く認識し積極果敢な挑戦をしたい。